



## 2022年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年2月14日

上場取引所 東

上場会社名 ケンコーマヨネーズ株式会社

コード番号 2915 URL <https://www.kenkomayo.co.jp>

代表者（役職名） 代表取締役社長 （氏名） 炭井 孝志

問合せ先責任者（役職名） 取締役 （氏名） 立花 健二

TEL 03-5941-7682

四半期報告書提出予定日 2022年2月14日 配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無：無

四半期決算説明会開催の有無：無

（百万円未満切捨て）

### 1. 2022年3月期第3四半期の連結業績（2021年4月1日～2021年12月31日）

#### （1）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第3四半期	57,580	10.4	1,339	△13.1	1,328	△17.9	887	△21.4
2021年3月期第3四半期	52,155	△9.0	1,542	△35.4	1,617	△34.8	1,129	△34.0

（注）包括利益 2022年3月期第3四半期 1,139百万円（△10.5%） 2021年3月期第3四半期 1,272百万円（△25.7%）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第3四半期	54.38	—
2021年3月期第3四半期	68.55	—

#### （2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第3四半期	66,301	36,074	54.4
2021年3月期	62,320	35,577	57.1

（参考）自己資本 2022年3月期第3四半期 36,074百万円 2021年3月期 35,577百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	8.00	—	12.00	20.00
2022年3月期	—	7.00	—	—	—
2022年3月期(予想)	—	—	—	8.00	15.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2022年3月期の連結業績予想（2021年4月1日～2022年3月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通 期	73,200	6.9	1,430	△27.6	1,500	△26.9	1,050	△28.0	63.73

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 一社、 除外 一社

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料9ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料9ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年3月期3Q	16,476,000株	2021年3月期	16,476,000株
② 期末自己株式数	2022年3月期3Q	200,578株	2021年3月期	578株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2022年3月期3Q	16,314,311株	2021年3月期3Q	16,475,422株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(会計方針の変更)	9
(セグメント情報)	10
(収益認識関係)	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（2021年4月1日から2021年12月31日まで）におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症対策として発令されていた緊急事態宣言などの行動制限措置が9月末で解除されたことにより、飲食や旅行などのサービス消費の持ち直しなど景気回復の兆しが見られました。しかしながら、海外での感染拡大や自然災害による原材料等の供給不足、特に食用油の主原料となる大豆に関しては北米地域の乾燥天候による減産やバイオ燃料の生産拡大によって食料需要との競合が発生し、さらには資源価格の大幅な高騰による急激な物価上昇や景気下振れリスクが懸念されるなど、今後の景気見通しは予断を許さない状況が続くものと思われま

す。このような事業環境の中、当社グループにおきましては、次の成長へ向けて当連結会計年度を初年度とする中期経営計画『KENKO Transformation Plan』をスタートさせております。この中期経営計画は、前中期経営計画のCSV経営の考え方を継続し、社会と企業の共存を目指すために「企業価値の向上と持続的な成長に向けた変革」を基本方針とし、次の4つのテーマ及びサステナビリティ方針を軸に取り組みを進めております。

#### <4つのテーマ>

##### ① B to B to C

Withコロナ、Afterコロナを見据えた上で従来からの取引先企業に加えて、消費者の皆様にも当社を知っていただく機会を増やす

##### ② イノベーション

将来の地球環境を見据え環境保全を意識し、CSV・ESG・SDGsの観点を取り入れることで社会に必要とされる新しい事業「New KENKO」を創り出す

##### ③ 構造改革

基盤事業の成長を目指すため、従業員のモチベーション向上に繋がる働き方改革や、業務改善を進めるシステムの再構築をはじめとした改革・改善活動を実施する

##### ④ グローバル

輸出版売を拡大させるとともに、海外リサーチ拠点を活用した世界の食トレンドを取り入れた商品開発をはじめ、グローバル化に対応した人財強化などグローバル事業の基盤を強化する

#### <サステナビリティ方針>

当社グループは、持続可能な社会の実現に向け、「環境」「社会」「健康」への貢献を指標としたサステナビリティ方針を定め、次の5つの重要課題に取り組んでおります。

① 温室効果ガス、② 原料、③ 容器・包材、④ 健康、⑤ 人財

当第3四半期連結累計期間における売上高及び利益の概況は以下のとおりであります。

(売上高)

売上高につきましては、ファストフード向けの売上が引き続き好調で推移したことや、行動制限措置が解除された10月以降は外食分野を中心に売上の回復が進んだことにより、新型コロナウイルス感染症の影響が生じる以前の一昨年同四半期の水準に達するまで回復いたしました。

(利益)

利益につきましては、原料価格の更なる高騰による大幅なコストの増加に対して、工場の原価低減をはじめとした全社的な経費削減の取り組みを行うとともにマヨネーズ類の価格改定を進めてまいりましたが、前年同四半期比で減益となりました。

当第3四半期連結累計期間の経営成績は、連結売上高は57,580百万円（前年同四半期比5,425百万円の増加、10.4%増）、連結営業利益は1,339百万円（前年同四半期比202百万円の減少、13.1%減）、連結経常利益は1,328百万円（前年同四半期比289百万円の減少、17.9%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は887百万円（前年同四半期比242百万円の減少、21.4%減）となりました。

当第3四半期連結累計期間における各報告セグメントの状況は以下のとおりであります。

(調味料・加工食品事業)

前年同四半期における新型コロナウイルス感染症拡大による大幅な落ち込みから回復が進み、各商品群いずれも前年同四半期比で増収となりました。各商品群における主な内容は次のとおりであります。

サラダ・総菜類につきましては、主力商品の1kg形態のポテトサラダが外食向けなどで売上の回復が進んだことや、ツナサラダ・和惣菜なども着実に売上を伸ばしていることにより増収となりました。

タマゴ加工品につきましては、大手製パンメーカーやコンビニエンスストア向けのタマゴサラダが増加したこと、また厚焼き卵が外食チェーンやコンビニエンスストアで採用されたことにより増収となりました。

マヨネーズ・ドレッシング類につきましては、中期経営計画のテーマの一つである「B to B to C」に基づいたミドルサイズ商品やテイクアウト需要への対応に加えて、7月から進めておりますマヨネーズ類の価格改定効果等により増収となりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間におけるセグメント売上高は43,850百万円（前年同四半期比4,351百万円の増加、11.0%増）、セグメント利益は1,746百万円（前年同四半期比489百万円の増加、39.0%増）となりました。

## (総菜関連事業等)

2018年より稼働を開始した株式会社ダイエットクック白老及び株式会社関東ダイエットクック神奈川工場は、コロナ禍における中食需要の高まりも寄与して売上高は順調に拡大し、利益も大幅に改善しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間におけるセグメント売上高は13,071百万円（前年同四半期比1,032百万円の増加、8.6%増）、セグメント利益は795百万円（前年同四半期比360百万円の増加、83.0%増）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

## (資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、66,301百万円（前連結会計年度比3,981百万円の増加、6.4%増）となりました。これは主に受取手形及び売掛金が4,213百万円、現金及び預金が564百万円それぞれ増加した一方で、機械装置及び運搬具（純額）が1,321百万円、建物及び構築物（純額）が517百万円減少したこと等によるものであります。

## (負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債は、30,226百万円（前連結会計年度比3,484百万円の増加、13.0%増）となりました。これは主に買掛金が4,613百万円増加し、長期借入金が1,313百万円減少したこと等によるものであります。

## (純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、36,074百万円（前連結会計年度比496百万円の増加、1.4%増）となりました。

## (自己資本比率)

当第3四半期連結会計期間末における自己資本比率は、54.4%（前連結会計年度比2.7ポイント減）となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年5月14日に公表いたしました連結業績予想に変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	12,385	12,949
受取手形及び売掛金	11,004	15,218
商品及び製品	1,814	1,951
仕掛品	8	10
原材料及び貯蔵品	812	1,182
未収還付法人税等	—	343
その他	292	299
貸倒引当金	△2	△3
流動資産合計	26,317	31,952
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	12,033	11,516
機械装置及び運搬具(純額)	10,928	9,606
土地	6,021	6,021
建設仮勘定	2	2
その他(純額)	464	382
有形固定資産合計	29,451	27,529
無形固定資産	166	261
投資その他の資産		
投資有価証券	5,077	5,284
繰延税金資産	190	131
その他	1,148	1,172
貸倒引当金	△31	△30
投資その他の資産合計	6,385	6,558
固定資産合計	36,003	34,349
資産合計	62,320	66,301

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	7,753	12,366
電子記録債務	673	1,110
1年内返済予定の長期借入金	1,499	1,446
未払法人税等	305	292
その他の引当金	441	224
その他	4,330	5,025
流動負債合計	15,004	20,466
固定負債		
長期借入金	7,141	5,828
役員退職慰労引当金	395	6
退職給付に係る負債	398	372
その他	3,802	3,553
固定負債合計	11,738	9,760
負債合計	26,742	30,226
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	5,424	5,424
資本剰余金	5,691	5,691
利益剰余金	23,253	23,829
自己株式	△1	△332
株主資本合計	34,367	34,612
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,268	1,404
為替換算調整勘定	△22	71
退職給付に係る調整累計額	△35	△13
その他の包括利益累計額合計	1,210	1,462
純資産合計	35,577	36,074
負債純資産合計	62,320	66,301



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## (四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
売上高	52,155	57,580
売上原価	40,041	45,484
売上総利益	12,113	12,096
販売費及び一般管理費	10,570	10,756
営業利益	1,542	1,339
営業外収益		
持分法による投資利益	7	—
受取利息及び配当金	33	32
雇用調整助成金	43	2
その他	80	56
営業外収益合計	165	92
営業外費用		
支払利息	65	55
持分法による投資損失	—	41
その他	24	7
営業外費用合計	89	104
経常利益	1,617	1,328
特別利益		
投資有価証券売却益	7	1
補助金収入	54	12
その他	—	1
特別利益合計	61	15
特別損失		
固定資産除却損	3	1
投資有価証券売却損	2	—
投資有価証券評価損	8	7
その他	2	0
特別損失合計	17	10
税金等調整前四半期純利益	1,662	1,332
法人税等	532	445
四半期純利益	1,129	887
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,129	887

## (四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
四半期純利益	1,129	887
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	258	135
退職給付に係る調整額	15	21
持分法適用会社に対する持分相当額	△131	94
その他の包括利益合計	143	252
四半期包括利益	1,272	1,139
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,272	1,139

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2021年2月19日開催の取締役会決議に基づき、2021年5月27日に自己株式150,000株、2021年8月19日に自己株式50,000株の取得を行いました。この結果、当第3四半期連結累計期間において自己株式が331百万円増加し、当第3四半期連結会計期間末において自己株式が332百万円となっております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

連結子会社における税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益又は税引前当期純損失に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。なお、収益認識会計基準等の適用による当第3四半期連結累計期間の損益に与える影響はありません。

また、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第3四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。これにより四半期連結財務諸表に与える影響額はありせん。

## (セグメント情報)

## I 前第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	調味料・ 加工食品 事業	総菜関連 事業等	計				
売上高							
外部顧客に対する売上高	39,499	12,039	51,538	616	52,155	—	52,155
セグメント間の 内部売上高又は振替高	531	4,913	5,444	—	5,444	△5,444	—
計	40,030	16,952	56,983	616	57,599	△5,444	52,155
セグメント利益又は損失(△)	1,257	434	1,691	△7	1,684	△66	1,617

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ショップ事業、海外事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△66百万円は、セグメント間取引消去によるものであります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

## II 当第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	調味料・ 加工食品 事業	総菜関連 事業等	計				
売上高							
外部顧客に対する売上高	43,850	13,071	56,922	658	57,580	—	57,580
セグメント間の 内部売上高又は振替高	566	5,460	6,026	—	6,026	△6,026	—
計	44,417	18,531	62,948	658	63,606	△6,026	57,580
セグメント利益又は損失(△)	1,746	795	2,542	△21	2,521	△1,193	1,328

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ショップ事業、海外事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△1,193百万円は、セグメント間取引消去によるものであります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

## (収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当社グループの売上高は、顧客との契約から生じる収益であり、当社グループの報告セグメントを財又はサービスの種類別に分解した場合の内訳は、以下のとおりであります。

当第3四半期連結累計期間（自 2021年4月1日 至 2021年12月31日）

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	調味料・ 加工食品 事業	総菜関連 事業等	計		
サラダ・総菜類	13,095	—	13,095	—	13,095
タマゴ加工品	14,720	—	14,720	—	14,720
マヨネーズ・ドレッシング類	15,179	—	15,179	—	15,179
フレッシュサラダ・和惣菜等	—	13,071	13,071	—	13,071
その他	856	—	856	658	1,514
外部顧客への売上高	43,850	13,071	56,922	658	57,580

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ショップ事業、海外事業を含んでおります。